

## 東アジア公共圏の誕生：

### 19世紀後半の東アジアにおける英語新聞・中国語新聞・日本語新聞

塩出 浩之（京都大学）

#### 【発表要旨】

19世紀後半の東アジアでは、英語新聞と中国語新聞、日本語新聞によって、国境と言語を越える報道と言論の流通が生まれた。報告者はこれを、東アジアにおける公共圏の誕生として捉えたい。

東アジアは世界市場に編入される過程で、開港地間の貿易ネットワークを通じて、一つの地域として機能し始めた。開港地で主導的な立場にあったイギリス人は各地に英語新聞をもたらしたが、これらの英語新聞は互いに記事の参照や転載をさかんに行き、国境を越えた言論圏を形成した。

英語新聞の活動に触発されて、中国と日本ではそれぞれ中国語新聞と日本語新聞が誕生した。これらの新聞と各地の英語新聞との間では、翻訳と転載を通じて記事が流通し、中国側も英語新聞を通じて日本語新聞の論調を知るようになった。また日本側では中国古典の教養により、日本に輸入された中国語新聞がそのまま読解された。

このような報道と言論の流通は、1870年代以降に東アジアで頻発した国際紛争と密接に関わっていた。明治維新後の日本が台湾や琉球（沖縄）、朝鮮をめぐる中国と対立する中で、英語新聞と中国語新聞、日本語新聞の間では互いの報道や言論に対する関心が増大し、共通の関心事について互いに異なる立場や意見をもっていることが明らかになったのである。本報告では台湾出兵や琉球処分を具体例として、このような東アジア公共圏の誕生を分析する。

#### 【略歴】

塩出 浩之（しおで ひろゆき）/SHIODE Hiroyuki

1974年生まれ。1997年、東京大学教養学部卒業。2004年、東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。現在、京都大学文学研究科准教授。研究分野は日本近代史・日本政治史。主な著書：『岡倉天心と大川周明：アジアを考えた知識人たち』（山川出版社、2011年）、『越境者の政治史：アジア太平洋における日本人の移民と植民』（名古屋大学出版会、2015年）、『公論と交際の東アジア近代』（編著、東京大学出版会、2016年）。